

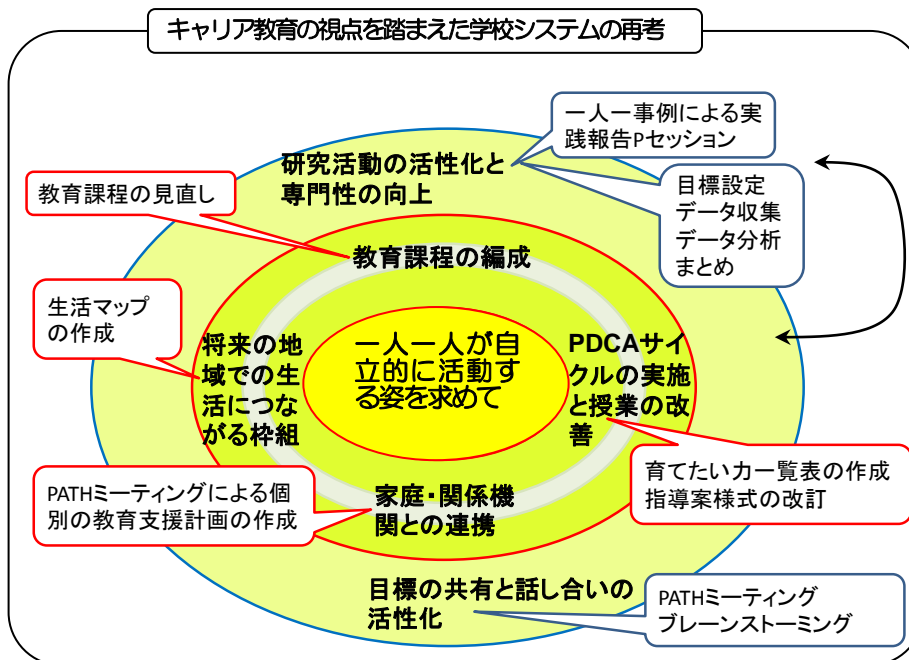
1 これまでの研究のあゆみ

本校では、平成23年度から3カ年の計画で「キャリア教育の視点を踏まえた学校システムの再考」という研究テーマを掲げ、キャリア発達を促すための指導方法の探究やキャリア教育の在り方について、教師全員で実証的研究を進め、授業の充実を図ってきました。一昨年度は、地域での役割の変化や余暇活動の充実を視野に入れ、児童の教育的ニーズを的確に把握するために「キャリア発達における育てたいカー一覧表」を基本ツールとして策定しました。また、「育てたいカー一覧表」に基づき段階的・系統的な指導のあり方を見直すためにこれまでの指導案の形式を抜本的に見直しました。さらに、教師一人一人が授業づくりにおけるPDCAサイクル(計画→実行→評価→改善)を理解し実践するために、一人1事例の実践発表「ポスターセッション」を年間3回行いました。2月には公開授業研究会での研究発表および実践発表(分科会(授業研究、ポスター発表)を行い、84名の参加者(小・中・高等学校、県内外(熊本・福岡・鹿児島)の特別支援学校、地域の福祉施設等)の皆さんから多くの示唆を得ました。



平成24年度公開授業研究会、重複学級グループ分科会「ポスターセッション」の様子

2 研究の目的と概要



本研究では、キャリア教育の視点で教育課程をはじめとする学校の様々なシステムを見直し、児童生徒一人一人が自立的に活動できる指導支援体制を構築することを目的としています。そして、研究の概要を左図のように設定しました。さらに、この研究の目的を達成するために、以下の①～④

のことについて明らかにしていくこととしました。

- ① 子どもの発達の段階に配慮し、必要な力の基盤となる「育てたい力」(別図)を活用することで、一貫性と系統性のある指導・支援へとつなげていく。

② これまでの学習計画（指導案等）の形式を①に基づいて見直し、学習内容を具体的に明示することで、指導・支援のねらいを明確にし、授業の評価・改善へとつなげ、PDCA サイクルを明確にする

③ 話し合いの手法を変えることで、本人・家族の将来の夢の設定、さらに段階的支援目標を関係者間で共有する

④ これまでの職員研修の方法を見直し活性化することで全職員が一体となって研究に取り組み、そして、そのことで互いの良さを理解し、子どもの実態の把握や対応の仕方の共有が図られ、組織としての専門性が発揮できるシステムであることをあきらかにする

3 3カ年の研究計画

1年次（23年度）

学校システムの検討と「育てたい力」一覧表をどう活用していくのか運用のプロセスを明らかにすることに重点をおく

- ☆ 子供の発達段階に配慮し、必要な力の基盤を育むための基準となる「育てたい力」一覧表（マトリックス表）の作成
- ☆ 「育てたい力」一覧表を基に作成した学習内容表を含む指導案の作成

2年次（24年度）

「育てたい力」一覧表の運用と内容の検討、職員研修の活性化によるPDCA サイクルの理解と専門性の向上に重点をおく

- ☆ 「育てたい力」一覧表（マトリックス表）の内容の検討と活用
- ☆ 「育てたい力」一覧表を基に作成した学習内容表を含む指導案の活用
- ☆ PATH ミーティングの実施による将来の夢の共有と段階的指導・支援目標の確認
- ☆ 生活マップの作成と地域等学校外での生活の把握

3年次（今年度）

新たな学校システムの検証と「育てたい力」一覧表や「指導案」等のツールの運用プロセスの確認と全体計画のまとめに重点をおく

- ☆ 年間指導計画・学習指導目標集の作成
- ☆ 「育てたい力」一覧表（マトリックス表）の内容の検討と活用
- ☆ 「育てたい力」一覧表を基に作成した学習内容表を含む指導案の活用と評価
- ☆ PATH ミーティングの実施による将来の夢の共有と段階的指導・支援目標の確認
- ☆ 生活マップの作成と地域等学校外での生活の把握

4 今年度の取組

今年度は、これまでの実践を振り返り、修正・改善を加えながら3カ年の実践研究を精査し、研究紀要として成果をまとめます。そして、昨年につき8月の日本特殊教育学会で発表する予定です。全国のキャリア教育の研究者や教育者との交流を深め、全国的な動向を視野に入れた研究の質の向上を目指します。

さらに1月25日(土)には公開研究発表会を県内外から広く参加者を募り開催する予定です。校種を問わず多くの方々に参加して頂き、研究テーマについて協議し、本校の研究の内容や手法について多くのご意見を頂きたいと思っています。

キャリア発達における「育てたい力」一覧表

(熊本県立荒尾支援学校)

キャリア	3つの力	基礎的・汎用的能力	生活にかかわる基本的スキル獲得の時期			職業及び生活にかかわる基礎的スキルを土台に、働くことへの応用スキル獲得の時期			実際に働く生活を想定した具体的な適応スキル獲得の時期		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			好きな活動を見つける	好きな活動を思いきり楽しむ	好きな活動を通していろいろなものに興味をもつ	好きな活動を選び、楽しむ	いろいろな場所で好きな活動を楽しむ	家族や友達と余暇を楽しむ 福祉サービスを使って余暇を楽しむ	好きな活動を自分で選び、家族や友達と余暇を楽しむ	職業生活・社会生活および将来設計に基づいた余暇の活用を考え、家族や友達と余暇を楽しむ	
社会的	かかわる	人間関係形成・社会形成能力	余暇を楽しむ力			楽しむ・やりがい			やりがい・生きがい		
			地域の中で暮らす力			地域の人々や施設を利用できる			地域の人々と一緒に様々な施設、福祉サービスを利用する		
			人とのかかわり			自己理解・他者理解					
			自他理解			自己理解・他者理解					
			協力			集団参加			協力・共同		
			コミュニケーション			自己理解					
			意思表現			自己理解					
			あいさつ			自己理解					
			意思表現			自己理解					
			あいさつ			自己理解					
職業的	きめる	自己管理能力	目的に向かって			目標設定			目標設定・課題解決		
			自己選択			自己選択・決定			責任		
			振り返り			肯定的な自己評価			自己調整		
			習慣形成			自己管理					
			関心・憧れ			将来への気づき・夢			進路計画・希望		
			身近なものへの関心			様々な情報への関心			情報収集と活用		
			はたらくよこび			働くことの体験的理解			働くことの意義		
			身近なきまり			社会のきまり			法や制度の理解		
			お金(硬貨、貨幣)の使用			金銭の扱い			消費生活の理解		
			お金(硬貨、貨幣)の使用			金銭の扱い			消費生活の理解		